

# 苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 4 回 定例委員会
日時	平成30年4月27日 自 14時00分 至 14時45分
場所	市役所第2庁舎2階南会議室
出席委員	教育長 和野 幸夫 委員 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 植木 忠夫 委員 齋藤 智子
欠席委員	
会議録署名委員	植木 忠夫 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 高橋 優介
事務局職員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 口 朋 史 教 育 部 参 事 丹 野 靖 彦 教 育 部 参 事 前 田 辰 夫 総 務 企 画 課 長 齋 藤 貴 志 学 校 教 育 課 長 阿 部 秀 明 生 涯 学 習 課 長 白 川 典 之 生 涯 学 習 課 主 幹 藤 原 誠 総 務 企 画 課 長 補 佐 千 葉 暢 総 務 企 画 課 主 査 前 田 亜 矢 子 総 務 企 画 課 主 事 高 橋 優 介
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（和野教育長）・・・14時00分
2	会議録署名委員の指名（植木忠夫委員）
3	会議録の承認
	（和野教育長） 第3回定例教育委員会（平成30年3月29日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
	（一同「はい」の声）
	-会議録どおり承認-
4	教育長の報告
	（和野教育長） 3月29日の第3回定例教育委員会以降の事業などについて報告をさせていただきます。
	はじめに、このたびの人事異動の総括として、3月30日、4月2日、4月3日の3日間で退職辞令、異動辞令、採用辞令など192件の辞令交付を行いました。昨年よりは若干規模が大きくなっております。これは、小学校事務補の非正規化に伴う異動や、第2学校給食共同調理場に係る調理業務の民営化に伴う異動も含んでいることによるものと考えます。
	多くの職員が教育委員会を去り、また、多くの職員をお迎えして新体制がスタートいたしました。人事異動は、個人にとっては自己研修の機会となり、組織にとっては職場に新しい風を送り、同時に組織改革の絶好の機会になるものと期待をしていると

ころです。

次に、4月9日から10日にかけて、各教育委員には各小中学校の入学式に参列いただきました。ありがとうございます。各学校では滞りなく入学式を執行し、年度初めの諸行事も着々と進められ、新年度の学校経営に入ったところであります。

4月10日には「平成30年度第1回胆振管内教育委員会教育長会議」が胆振教育局で開催されました。佐野新胆振教育局長の代わりに、濱中次長より「オール胆振で胆振の子どもたちをどのように育むか」というテーマを共有し、「地域社会とその中核を担う学校の協働した取組を推進する」とした「平成30年度管内教育推進のテーマ」が説明されました。参考に、お手元に資料を配付いたしました。また、北海道教育推進計画の6項目の基本目標に基づいて、胆振管内教育推進の重点としては、基本目標1「社会で生きる力の育成」として、グローバル化、社会的・職業的な自立に向けて確かな学力やこれからの時代に求められる資質・能力の育成、特別支援の充実、キャリア教育の充実を図るとしております。基本目標2「豊かな人間性の育成」では、自尊感情や他者との協働に向けて、道徳教育の充実やいじめ・不登校解消の取組の推進としております。また、基本目標3は「体力・運動能力向上、食育推進による健やかな体の育成」とし、基本目標4は「学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進」とし、家庭教育支援の充実を図るとして、SNS等のアウトメディアフォーラムを実施したいとしております。基本目標5は「学びをつなぐ学校づくりの実現」、基本目標6は「生涯学習社会の構築に関して学びを活かす地域社会の実現」として、多様なニーズに応じた学習機会を提供するとしております。これまでの取組を大きく変更するものではありませんが、今後とも胆振が一つになって取り組む姿勢が示されたものと考えております。

また、服務規律の保持に関して、胆振振興局職員の事件も引き合いに出し、更なる緊張感を持った取組を求めています。

4月16日には、転入校長研修会を開催いたしました。私からは、8名の校長先生に「苫小牧市と苫小牧市教育の現状と課題」として、時間の関係もあり主に私の自己

紹介と少子高齢化を迎えた本市教育行政の課題について説明をいたしました。また、丹野参事及び前田生徒指導主幹から「教育推進の現状と課題」、関崎指導主事から「特別支援教育の現状と課題」、そして東梅教職員係長から「服務規程の保持について」を説明しております。8名の校長先生は皆、本市との関わりも深く本市の事情もよく理解しておられますので、安心して学校をお願いすることができると考えております。

同日4月16日には、生涯学習関連の事業であります「苫小牧市長生大学入学式及び始業式」を開催いたしました。42名の新入生をお迎えし、311名の学生が新年度に臨んでおります。来賓として、佐藤裕苫小牧市副市長、松井雅宏市議会副議長に祝辞をいただき盛大に開催されました。私からは、「長生大学の活動のみならず、地域や社会活動にも積極的に参加されていることに敬意を表したい」と式辞を述べたところであります。

4月19日には、平成30年度苫小牧市教育研究会代議員会が教育センターで開催されました。41年間続いた総会方式から代議員方式に転換して3年目を迎えます。これまでの慣例を見直した意義のある取組と考えます。代議員会に当たり、新学習指導要領の全面実施に向けた移行期間に入り、各教科等において子どもたちに今求められている資質・能力を育むために、学びの在り方を絶え間なく考え「主体的・対話的で深い学び」を実現することが求められていると挨拶いたしました。今年も46の研究会で、小・中学校の先生方が専門性を高め合いながら、連携した義務教育9年間の系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組むこととなります。その活動が有意義なものになるよう期待しているところであります。

次に、20日には「平成30年度第1回公立高等学校配置計画胆振東学区地域別検討協議会」が教育センターで開催されました。北海道教育庁学校教育局高校教育部の櫻井課長より、平成31年度から平成32年度の計画に加え、平成33年度以降の本市の中学生徒数の状況、特に平成33年度は96名減少する見込みなどが説明されました。今後、生徒数の減少に対する間口の圧縮などの案が6月頃に示されるとのこと

であります。また、平成33年度以降も中学生の卒業生数の減少が続くことが想定されることから、学校再編を含めた定員調整の検討が必要との考えも示されております。

本市には、北海道立の高等学校のほか、高等工業専門学校や私立高等学校が2校、白老町にも私立、北海道立の高等学校があり、私立高校の立場を考えますと公立高校の間口削減の扱いは難しい課題であります。中学生徒数の減少がストレートに公立高等学校の間口減という北海道教育局の方針には、違和感を覚えるところであります。

次に、4月23日には第1回の教頭会議が開催されました。私からは、例年どおり平成30年度苫小牧市教育行政執行方針の説明を行い、加えて、一向に教職員の意識向上が見られない交通違反や交通事故に関して、更なる指導の徹底と注意喚起を求めています。

最後に、その他(2)に記載しております教職員の人事異動については、安平町教育長の人事に伴う異動でありますので、後ほど説明いたします。

平成30年度がスタートいたしました。多くの教育的課題について、各教育委員の皆様と「ほうれんそう」を柱に、共通認識のもとに課題解決を図りたいと考えております。今年度もよろしくお願いいたします。

私からは以上であります。何か質問等はございますか。

(一同「なし」の声)

## 5 議 案

第1号 苫小牧市公民館運営審議会委員及び図書館協議会委員の委嘱について

(和野教育長) 議案第1号につきましては人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、会議の日程の最後に審議を行

いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(和野教育長) それでは、議案第1号を秘密会とし、日程の最後に審議を行うことに決定いたします。

## 6 協 議

(和野教育長) 協議事項をお持ちの方はいらっしゃいますか。

(一同「なし」の声)

## 7 その他

### (1) 平成30年度教育部課題シートについて

(教育部長) -平成30年度教育部課題シートについての説明-

(和野教育長) 質疑に付します。

(上原委員) 質問は何点かありますので、1つずつ質問していきたいと思います。

今説明がありましたように、今回初めてこのような形で提示をされましたが、非常にわかりやすいと思っております。それで、言及はなかったのですが、今年初めてということですから、次年度以降もこのような形で出していただけるとか、その点を確認したいと思います。

<p>(教育部長) 次年度以降もこの時期になると思いますが、ご説明させていただきたいと思います。</p>
<p>(上原委員) わかりました。もう1つ、この課題シートの位置づけについてお話がありました。重要な項目でありますので、財政的な絡みも含めて苫小牧市の内部、市全体として共通に認識や理解をすることが必要だろうということから、4項目ということでお話をされたのですが、先ほどの話ですと、まだ26項目あるという話でした。その残りの部分については、恐らく委員会の中でもその都度話が出てくるのだろうと思うのですが、もし全体的に26項目の課題があるのであれば、我々としてもそれを知っておく方が良いと思います。そのようなことから、その全体像のようなものを示すことはできるのでしょうか。</p>
<p>(教育部長) 申し訳ございません。全体で26項目の課題がございまして、その中には毎年継続して課題ということで出している案件もございます。特に目新しいものについては、大変少ない状況になっておりますが、全体像がわかるものについては、今上原委員からのご提案がありましたので、次回どのような形でお示しできるかを検討させていただきたいと思います。</p>
<p>(上原委員) 毎年、予算を検討する段階ではいろいろな項目が載っていますから、その中でもある程度の課題はわかるのですが、今お話がありましたように、このような形でまとめていただけると我々も認識しやすいと思っておりますので、是非その方向でお願いをしたいと思います。</p>
<p>次に、具体的に今説明のあった内容について少し質問したいのですが、「道立特別支援学校の設置要望」に関してお伺いします。これに関しては、私も教育委員長時代に教育長と一緒に道教委まで行った経緯もありますので、中身的にはよく知っておりますが、ここに問題点と今後の対応策ということが載っています。問題点では、道教委としては新しい形のものを考えているということなのですが、その中で、「道教委の考え方が道議会で『対象児童生徒の増加、もしくは圏域内の定員を上回る』必要が示された」と書いてありますが、「増加」、あるいは「上回る」ということは具体的</p>

にどのようなことなのでしょう。その点をお伺いしたいです。

(総務企画課長) 問題点の(2)の内容について、全体として児童生徒数は減少傾向にあるのですが、対象児童生徒数、特に重い障害を持っているお子さんについては減っているという状況ではございません。ただ、新しく学校をつくるに当たっては、そこが増加するか、若しくは日高・胆振の圏域内、今は平取に学校がありまして、その圏域内について平取の養護学校の規模に入りきらない場合に、新たに学校を設置するといった考え方を北海道として示しています。その考えに沿った形になれば、新たに学校をつくるという動きが出てくるだろうという押さえになっています。

(上原委員) そうすると、道教委としては、定数や数字があって、その数字を超えた場合ということではなく、現状と比較をしながらその中で考えていくというような意味なのでしょう。

(総務企画課長) 現在、平取の定数的には、一応入りきる規模の人数しか行っていないのですが、そこにも今苦小牧で抱えている、本来平取に行くべき子どもたちを全て合わせると、その範囲を超えるのではないかという議論をしています。そういった形で、実際に通うことはできていないのですが、全てを合わせると胆振・日高の管内は、平取の規模では抱えきれないのではないかというような方向での議論をさせていただきます。

(上原委員) 次に、2点目ですが、今後小・中学部の設置を優先要望とするということが書いてありますが、道教委の考え方では、高等部ということもある訳です。そうすると、高等部ということをどのように苦小牧として捉えていくと良いのか、その辺りが少しわからないのですが、現状段階ではどのように考えていらっしゃいますか。

(総務企画課長) 苦小牧としては、高等部も含めた全ての予算を計上してほしいということは継続して要望していくこととなりますが、今北海道の中では高等部の再編というような考えがありまして、高等部の再編があって初めて苦小牧への設置に少し近づくのかなという考えもあります。平取には高校を残しながら、苦小牧には小・中学部の設置をまずは優先して要望したいという考えであります。



<p>(上原委員) わかりました。将来的にはその辺りも考えていくということだろうと思います。そうすると、現在検討している明德小学校ですが、この場所でスペース的に足りるのかどうか、その点についてはどのように考えておられますか。</p>
<p>(和野教育長) 今総務企画課長が答弁してきたとおり、これはあくまでも苫小牧市の考えですので、これについて北海道から「良いです」、「そのとおりにします」という答えはいただいております。このような方法でどうでしょうかという話をしています。明德小学校のサイズについては、小・中学部の規模であれば余裕があると考えています。それくらいのサイズであれば対応できるのではないかと考えております。</p>
<p>(上原委員) もう1点あります。問題点の中に、受入準備に係る体制整備と書いてあって、次のページにスケジュール的なものが載っているのですが、このページの一番右側の下の方にある「設置決定後」に数項目載っていますが、これがそのいろいろな問題点ではないのかなと思います。この中の、まだ我々も具体的な議論をしたことがないのですが、「山なみ分校の存廃」の件についてです。これは、大変難しいだろうと思うのですが、避けて通れない問題だと思っております。これについての考え方等は、まだそれほどはっきりとしていないのだろうと思っておりますが、いろいろな手続きが必要ですから、その中でスケジュール的に考えていくと、この平成31年3月までの中で解決しなければならない問題だと思うのですが、スケジュール的にはそのような考え方でよろしいのでしょうか。</p>
<p>(和野教育長) スケジュールについては、意識をしております。ですから、平成31年3月までにどうするということを決めている訳ではないです。それは、特別支援学校ができると決まっても、その考えは恐らく変わらないと思います。そう言いますのも、山なみ分校には山なみ分校としてそれなりの価値がありまして、それを利用している保護者・生徒の方もいますので、そこはもう少し様子を見させていただきたいと思っております。あとは、啓北中学校に特別支援学級ができますので、学区の整理、学校の整理はできると思っています。山なみ分校を希望する保護者の皆様について、特別支援学校に行くとか、それぞれの学級に行くということで淘汰をされれば、存廃に</p>

ついて考えなければならないということだと思います。

(上原委員) わかりました。

(佐藤委員) 今の道立特別支援学校の考え方なのですが、一応予定は立てているけれども、平成31年3月までに全てが決まるということではないということはわかりました。道教委のお考えでいろいろ変わっていくと思うのですが、平取の養護学校の存廃についても視野に入れて、苫小牧への小・中学部の新しい設置ということを考えていらっしゃるのかということです。日胆というくくりの中では1つになっていますが、苫小牧にもできるので、平取については縮小や廃止の対象として考えているところがあるのかどうかを教えてくださいたいです。

(和野教育長) それは、苫小牧市としてはそのことは考えられないと思います。今まで苫小牧の子どもたちが平取にお願いをしたという経緯を避けたり無視したりする訳にはいきません。平取の位置づけは大切だと思っていますし、そこは大事にしたいと思っています。北海道としては、平取を閉校にして苫小牧に持ってくるという考えは100パーセントないと思います。平取は平取として、今の学校規模になるように確保するなり、そのような方法を考えることになるだろうと、確認した訳ではないのですが、私としてはそのように考えます。ですから、私どもについても、平取の存廃について言及するようなことで苫小牧市へ道立特別支援学校を設置してほしいという要望にはならないと考えております。

(佐藤委員) わかりました。ありがとうございます。

(植木委員) 「教育ICT化の推進」ということで少し教えてくださいたいのですが、教育の多様化というものが国全体として求められている現状の中では、やはりICT化というのは非常に有力な方法の1つであろうと思うのですが、問題点の中にある「ICT支援員配置」について、このICT支援員の仕事の内容や役割はどのようなものなのでしょうか。

(総務企画課長補佐) ICT支援員ですが、過去にシステムエンジニアを経験された方や、それ以外にも北海道の事務の加配による方もいらっしゃるのですが、主

に学校でICTを使った授業が円滑に進むように、トラブルが起きた場合に対応します。あるいは、もっと深く突っ込むと、教材をつくることから支援をして、ICTを使った教材を円滑に使えるようにするなど、そのようなサポートをする方です。

(植木委員) プログラミング教育にも関わる支援員なのですか。

(総務企画課長補佐) 私が今まで聞いている例の中では、プログラミング教育にICT支援員が関わっているという話を聞いたことはないです。やはりプログラミングとなると、かなりスキルが必要なものでございますので、これまで自治体と連携した例としては、そういうシステムのベンダーさんや会社で実際にプログラムを書いている方が、学校の先生に対してこのように生徒さんにプログラミングを指導してくださいといったような研修会を行うなどの対応をしている例があると聞いています。

(植木委員) ありがとうございます。

(和野教育長) 他にございますか。

(一同「なし」の声)

(和野教育長) それでは、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

## (2) 教職員の人事異動に係る内申について (報告)

(和野教育長) その他(2)につきましては人事案件でございますので、教育委員会会議規則第21条の規定により、議案第1号と同様に秘密会としてよろしいでしょ

うか。

(一同「はい」の声)

(和野教育長) それでは、先ほど秘密会とすることに決定いたしました議案第1号と併せて審議をいたします。関係者以外は退席をお願いいたします。

(和野教育長) それでは、秘密会を解かさせていただきます。

なお、議案第1号につきましては原案どおり決定となり、その他(2)につきましては報告どおり終結いたしました。

8 委員会閉会の宣言 (和野教育長)・・・14時45分